

茶道が私にくれたもの

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校5年（群馬県）

吉田 椿

高校2年の今年、3年に一度行われる文化祭で私の所属する茶道部はお点前の披露と茶道体験の催し物をした。去年の入部から、初めての文化祭。お客さんが来てくれるか、きちんとお点前を披露できるか、たくさんの不安を抱え当日を迎えた。私は午前にお点前の披露、その後は水屋の手伝いと受付、接客を担当した。お点前を無事に終え、その後はたくさんの人にお茶のすばらしさを知ってもらいたいという一心で、受付に立ち、「茶道部です！お点前の披露とお茶を点てる体験をしています！おいしいお菓子を用意しています。いかがですかー！」とたくさんの人に声をかけた。当日は梅雨が明けたばかりとは思えないほど暑く、熱いお茶は好まれないかなど不安になりながらも、通り過ぎるお客さんみんなに声をかけるよう心がけた。初めこそ少なかったものの、時間が経つにつれどんどんお客さんが来てくださり、「いつもどんな風に活動しているんですか？」「お茶点ててみたいです！」という会話で溢れた。お客さんたちがお点前を見て感動していたり、お菓子を食べて癒やされるねと嬉しそうに話していたりするのを見て、私の不安は一気になくなった。こんなにもやっていてよかったと感じる経験は初めてだったし、自分の大好きな茶道に興味を持ってくれる人がいたことが何よりも嬉しかった。茶道体験に来てくれたお客さんとお茶を点てながら話したり、「抹茶好きですか？お茶とお菓子を召し上がっていただけますよ」と話しかけてみると、ぱっと顔を明るくしてくれるお客さんがいたり、本当に楽しいなと心から思える時間だった。来年から受験生の私は最近、自分が将来何をしたいのか、何になりたいのかを以前よりもよく考えるようになっていた。そんなタイミングで行われた文化祭でたくさんの人に話しかけたり、話してもらったりする中で、私はこういう仕事がしたいんだな、と思った。今まで触れてこなかったようなものを好きになってもらう。素敵な時間を過ごしてもらおう。そして笑顔になってもらう。そういうお手伝いができる仕事をしたいと思うようになった。お茶をされていて何より嬉しいのは来てくれたお客さんが、お点前を見て綺麗だね、お茶を飲んで美味しい、と言ってくれること、また来たいです、そう言って帰っていくこと。文化祭での経験はそういう素敵な時間を提供できるような仕事がしたいと再確認するきっかけになった。茶道は私にとって単なる部活動ではなく、自分の夢ややりたいことに気づかせてくれた。茶道が私にくれたものは、作法や知識だけでなく、最高の、至福の体験だった。来年の夏に控えた部活の引退までの残り約1年、全力で全身で楽しんでいきたい。